

# 梅花流たより

今年も初観音様の御供養と共に梅花講の新年を迎えることができました。

梅花行事の最初として二月中旬に行われる伊香保一泊研修会が決まっております。ところが今年は一泊研修会の大雪山のため中止となり何か出端をくじかれたような感じが致しました。

五月には島根県立浜山体育館「カミアリーナ」において平成二十六年梅花流全国大会が開催されました。島根県での開催は東日本大震災の影響等により延期されてきたので地元の方々の心からの歓迎を受け心を熱く致しました。

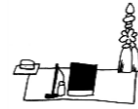
群馬県からは百余名の出席者と共に岡山空港に降り立ちました。そこからバスにて山陰自動車道を通り、大社（おおよし）が六〇年ぶりの遷宮を行って美しい出雲大社を参拝致しました。玉造温泉にて旅の疲れを癒し、翌日の奉詠大会を無事終えることができました。出場者の皆様ほんとうにお疲れ様でした。

余興として石見神楽という非常に貴重な伝統芸能を目のあたりにし圧倒されたかのような感じすら受けました。「大蛇（おろち）」という演目は出雲神話に登場する須佐之男命の大蛇退治の物語で龍にもみえる巨大な蛇が須佐之男命と激しい戦いを繰り広げるその物語は石見神楽の中でも類を見ないほど壮大なスケールで演じられ見る私たちに感動を与えるものでした。

翌日は足立美術館にて長時間に渡り素晴らしい庭園や絵画を鑑賞し帰途に着きました。



雲林寺では毎月2回2時間程度ご詠歌（梅花流）の会があります。参加費は無料です。ご詠歌は、ご供養の気持ちを中心温まるメロディーにのせてお唱えします。初めての方でも是非お気軽にお越しください。お待ちしております。



# 和讃始めませんか 和讃会会長 篠原禮子

和讃をはじめ始めて早くも十年以上になりました。テンプをかけて母が練習しているのを聞いて私も退職したら一緒に話していた頃に新たに始める人達が始まる事となり今に至っております。

お寺さんの行事、年に一度の春の全国大会、秋の県大会等の参加にと先生のご指導の元、講員一同いづれも楽しく練習させて頂いております。ちなみに今年の全国大会は五月の末に島根県の出雲で、前日には出雲大社を参拝し玉造温泉宿泊、出雲大社では丁度婚約のニュースの出た、お喜びの日でした。大会では最後のアトラクションで勇壮な伝統芸能石見神楽を堪能し、帰りには足立美術館の見学と大会を含め素晴らしい三日間でした。この様な事も和讃の会ですが、皆様には法事、葬儀の時等に副住職様の和讃のお唱えを聞かれた事が有ると思いがすが、県内の他の寺の講では男性講員の方も見かけられますので老若男女問わずに出来る梅花流、御和讃、御詠歌、どれも皆素晴らしい歌ばかりですので一緒に練習してみませんか、一緒に練習して見ましょう。始めませんか、和讃を。

## 主な参加行事

- 一月十八日 初観音様
- 二月月中旬 伊香保一泊研修会
- 四月三日 大般若会
- 「大般若会」の行事に参加し、お唱えします。
- 四月八日 釈尊降誕会
- お釈迦様の誕生を祝い、和讃をお唱えします。
- 五月月中旬 梅花流全国大会
- 一年に一回、全国の梅花流をお唱えするお仲間が集まる全国大会が開催されています。二日間で1万人を超える方々が集い地域ごとにお唱えの成果を発表します。
- 八月五日 天明三年の大噴火供養祭
- 境内の山門にてお唱えしています。
- 十一月頃 梅花流群馬県大会
- 群馬県内の梅花流のお仲間が集まり、各講でお唱えの成果を発表します。

## お盆会

～思い出の中に過ごす三日間～

お盆は亡き人々の思い出に浸りながら暮らす三日間（お盆の入り）を数えると四日間ですが、それにつけても、私達も一度は思い出される立場になるのであります。自分の生き方についてもよく考えるべき三日間でもあるわけです。しかし、主とするところは何かと立っての三日間であり、そのつもりで、泌々とした気持ちで平生はお互いに忘れがちで過ぎていっても、憶えていますよ、忘れちゃいませんよ、という気持ちで精霊さまを拜んでください。

## 盆は嬉しや別れし人が 晴れて此世に会いにくる

の気持ちで、はるばると、かつて住んでいたわが家になつかしい思いで帰って来る、年に一度の亡き人々の来訪をなつかしく、やさしい気持ちでお迎えし、せつなく訪ねて来た人に辛く冷たくしたり、また間違った暮らしぶりを見せて、失望させたり悲しませたりする事のないように、心からなるお給仕をして仕える日、これがお盆の心構えであり、過ごし方であり、

雲林寺住職 轟 紀久

## 護持会だより

第二回通常総会が開催されました

七月十七日（木）草津温泉ホテル樓井に於いて、総代世話人総数四十二名中出席者十四名、委任状提出者二十四名によって総会が開催されました。詳細は同封の「第二回通常総会開催結果のお知らせ」及び資料をご覧ください。

※北軽井沢の世話人、柳沢豊さんから恩田明さんに変更になりました。



## お盆の話

お盆というのは正しくは盂蘭盆といひ、ウランパーナという梵語からきたものです。それが中国に入ると、「救倒懸」と訳されました。倒懸とは地獄で逆さまに吊るされている、はげしい苦しみを意味し、その苦しみを救いたすけるというのが「救倒懸」、すなわち盂蘭盆の行事です。

また、盂蘭盆の盆には、器の意味があります。百味五果と称する種々の供物を盆器に盛り上げて、これを仏様や山の御弟子に供養して、その功徳を以て衆生倒懸の苦しみを救うという意味です。お盆の因縁は、お釈迦様が御在世の時に遡り、十大弟子の中に神通第一の目連尊者という方がいました。

ある時、神通力で大千世界の一切の境界を見渡すと、我が母が餓鬼道に墮ちて苦しんでいる様子が見えまじと見えました。目連尊者には助ける術がなく、み仏のもとに至り、泣く泣くその救助の法を求めますと、釈尊の静かに仰せられるには、「目連よ、汝が母の罪はあまりに重くて、諸天神も除くことができない。今はただ十方の僧の力を借りるほかはない。七月十五日は、比丘比丘尼たちが集まって懺悔をする日だ。この時、百味の飲食を供え、各地の僧たちに施しなさい。僧たちはその供物を受けて、一心に汝の母を、苦しみから逃れさせるように祈るだろう」と。

目連のお母さんはこのようにして、餓鬼道の苦を逃れることができ、これを因縁として盂蘭盆会の行事が始まったのです。

奈良時代の高僧、行基菩薩に、「山鳥のほろほろと啼く声きけば、父かと思ふ母かと思ふ」という歌がありますが、林間に囀る鳥、波間に遊ぶ魚も、私たち人間と、昔のいずれかの時において親子の因縁があった、と考えても不思議ではありません。

昨今、いのちの大切さということがよく言われますが、いのちは現に生きているものだけのものではない、まして人間のためだけのものではない、ということを考えてみる、これも盂蘭盆会の大切な意義なのです。

## 第6回雲林寺親睦ゴルフコンペのご案内

開催日:平成25年10月13日(月・祝)  
 場所:草津カントリークラブ  
 集合:7:15 スタート:8:05  
 募集人員:60名  
 ※詳細は雲林寺にお問い合わせ下さい。

今年も雲林寺親睦ゴルフコンペが開催されます。プレー終了後は、雲林寺本堂で表彰式、景品授与等パーティーを開催致します。お申し込みは各地区の世話人、又は雲林寺へ直接お願い致します。尚、過去ご参加頂いた方へはおハガキにて通知をさせていただきます。皆様多くの御参加をお待ちしております!!

## 編集後記

我々僧侶でも毎年このお盆の時期になると「命のち」について深く考えさせられるものです。

去る六月十九日に曹洞宗群馬県檀信徒大会が開催されましたが、大会テーマが「命のち」でありました。

お釈迦様は、この世のすべてが私自身であると心得て、自他の区別なく慈しみなきい説きました。

自分を含めた全てが仏さまですから、全てが尊厳ある存在です。この世に何一つ不要な存在はありません。全てがかかわりあって相互依存の調和の中で生かされています。

生命の進化論では「生命同根」です。お猿さんも庭の木も、命の起源はたった一つの細胞です。同根だから平等です。できれば自他を区別せずに大自然すべてが同根なる自己であると思いたいです。

副住職 轟 省吾

# 雲林寺報

第七拾号

平成26年2月3日 節分会

